

宗祖 法然上人 800回大遠忌

通信

法然上人と今、すべてのいのち



平成23年4月25日(月)～5月1日(日)
総本山 永観堂禅林寺

「法然上人」を胸に、特別法要・伝道の輪が広がる

「法然上人800回大遠忌特別法要・伝道」が六月四日、神戸阿弥陀寺での御親教から始まりました。ひきつづき、七月に京都の各寺院で開催され、どの寺院でも熱気にあふれた檀信徒さんにつつまれ、和やかな念仏の輪がひろがりました。法然上人の教えを胸に、仏の慈悲の光につつまれ、念仏する喜びに満ち溢れ、この感動を未来へ……と大きな渦となつてひろがっています。

堂内に法悦が充満しました。

京都では、お待ち受け法要が、七月八日午前十一時、末慶寺で開催されたのを皮切りに、午後二時、休務寺、午後七時、亀岡の積善寺と続きました。翌七月九日午前十一時、裏寺常楽寺、午後三時、宇治の真如寺と厳修されました。

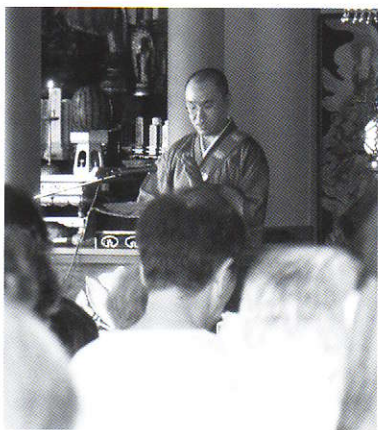
一ヶ寺ごといいねいに厳かに勤められ、たくさんの方々に感動と念仏の喜びをあたえ、堂内は法悦に満ちあふれていました。法要が終わって帰り行く人の顔には満足の表情がうかがえ、



順調なお待ち受け法要のすべりだしをみせました。

聴衆は法話に熱心に耳をかたむけていました。

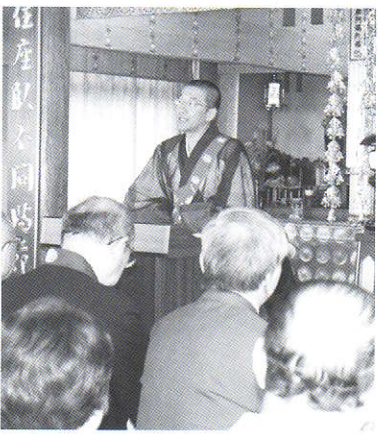
十五分の法話が二座続き、三十分の特別法要をはさみ、三十分の法話がづくという会座で、二時間で聴衆を法悦の世界に導きました。まず、最初に山科称名寺の住職太田孝裕師の一枚起請文の唱和が始まり、法然上人が「住



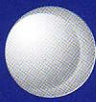
蓮・安楽の事件」で、土佐に配流にな

るが、「山海をへだつとも、浄土の大海なんぞ疑わぬ」といって、たとえ死にあおうともお念仏の教えを説くのだという強い意思をしめされたエピソードを紹介されました。

つづいて、津島・宝泉寺の伊藤信道師が「お念仏のみ教え」について話をされました。法然上人のお念仏の思想、とくに人間観について話され「往生大要抄」のなかの「はじめに、我が身の程を信



じ、後に仏の本願を信するなり。ただし、後の信心を決定せしめんがために、はじめの信心をば、あぐるなり。」という文を示し、法然上人には、生かされているにふさわしい自分なんだろうかという視点がある。自分を見つめなお



宗祖 法然上人800回大遠忌



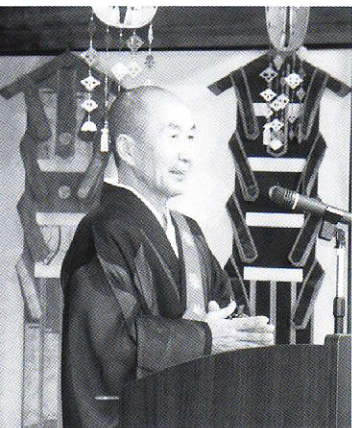
し、生かされていると自覚する人間こそがお念仏に救われるのだとおっしゃっている。また、生かされるにふさわしい自分はなんだろうかという物差で生きてゆくことが深い信仰に導かれると結ばれました。

感性に訴える お経は心に響きました。

維那が「奉請十方如来」と唱えると、全員の斉唱となり、ゆるやかに繰り返して唱えながら華籠の花を弧を描いて散華する姿は優美そのもの。声のよい人を選びすぐった法事部十人が日ごろの練習を積み重ね、美しい音色と威儀作法の統一美ですばらしい感動をあたえました。声の美しさと哀しさ、お経のリズムと躍動が聴衆の心を打つのでしよう。「威儀即仏法」を実現しました。

話術のすばらしさに聞きほれていました。

最後に、姫路大覚寺住職の中西玄禮師が「法然上人と女人往生」についてお話されました。法然上人が四国に配流になる途中、室津で遊女が、「女人に生まれ、しかも私は遊女。地獄へ落ちるしかないのでしょうか。浄土に生まれる方法を教えてください。」という問いに、法然上人は「もしこの業のほかに渡世の道があるのであれば、すみやかにこの悪縁を離れなさい。たとえ、他に渡世の道がないにしても、身命をかえりみない決意があれば、この業を捨てなさい。もし、渡世の道もなく、身命を捨てる意思もないなら、ただその身そのままで念仏しなさい。阿弥陀如来はあなたのような人のために、ご本願をおたてになったんですよ。その本願を深く信じて、自分はお念仏を唱えて仏様の浄土に生まれさせていただくことができるのだと心にしっかり受け止め



なさって「南無阿弥陀仏」とお念仏なさい。そうすれば、阿弥陀さまは決してあなたをお見捨てになることはありません。きつと浄土に迎えとってくださいませ。

この遊女はそれを聞いて「ありがとうございます。ございました」と心のそこから喜んで涙をこぼしながら船を下りていった。」と中西師がとうとうと語られると、堂内の聴衆はすっかり八百年前にタイムスリップしたように引き入れられ、話に魅せられ、法然上人への敬慕と人間平等の思想に感銘を受け、しばらく法悦に浸っていました。



聴衆のひとり末慶寺の総代富永和夫さんにこの法要について感想をおききました。「このような特別法要・伝道をやっていたいただくことは、法然上人八百年大遠忌を迎えるのにふさわしい催しであり、われわれ檀家としてありがたいです。法話もわかりやすく、感動

に満ちたものですし、法要も荘厳でありがたく、たいへん喜んでいきます。」とお話になりました。

なお、夜にお勤めになった積善寺さんは、檀家さんもお勤めの方がたくさんおられるので、夜のほうで落ちついて静かに聞いていただき、たいへん好評でしたとおっしゃっていました。



特別法要・伝道をご計画の方

特別法要・伝道をお考えの方、お早めにご計画をお知らせください。日程がまだ決まっていなくても、およその日程をお知らせください。当局のほうで調整いたします。一年二十箇所、五年間続ける予定ですが、あとになるほど申し込みが殺到することが予想されます。



宗祖法然上人800回大遠忌記念事業

「宗祖法然上人800回大遠忌」記念事業決まる。

七月二十六日(木)、本山で開かれた遠忌事務局文化部会で「宗祖法然上人800回大遠忌」の記念事業の大綱が決まりました。毎年各地で展開される記念大会、そこで繰り広げられる古屋和子さんの琵琶による語り「法然上人物語」、二枚起請文の十万巻写経、法然上人への「絵手紙」募集、誕生寺から比叡山まで歩く「法然上人を歩く旅」など企画が決まり、いよいよ「宗祖法然上人800回大遠忌」の記念事業の本番が始まります。

大遠忌記念大会を開催

全国檀信徒に感動をあたえ、お念仏の輪をひろげましょう。

「法然上人と今、すべてのいのち」をテーマに繰り広げられる宗祖法然上人800回大遠忌。もう一度、法然上人の業績を顕彰し、宗派としてさらなる発展に向けて前進していくときです。また、全国の檀信徒さんに感動をあたえ、お念仏の輪をひろげるときです。本年より毎年、各地で記念大会を開催いたします。実施内容は、特別法要伝道につづいて演出・観世榮夫さん、語り古屋和子さんの琵琶による「法然上人物語(仮称)」が演じられます。平成十九年三月、兵庫、高砂市福祉保健センターで開催。また、特別法要伝道は本年十月十三日(金)、午後六時、柘榴極楽寺、十月十四日(土)、午前、衣笠法音寺、午後、吉祥院常林院、十月十五日(日)、午前、札ノ辻地藏院、午後、本町浄心寺で実施されます。

「二枚起請文」を写経

法然上人の「二枚起請文」を全国にひろめましょう。

法然上人が一二二二年(建暦二年)、門弟源智の願いにより浄土往生の要義を一枚の紙に和文で記されたのが一枚起請文です。

口称念仏こそ、本願の念仏にほかならぬことを述べ、また無知なものと同時に、自身を一文不知の愚鈍の身におとし、専ら念仏すべきことを説いています。短い文章ですが、専修念仏の要旨が簡潔に説かれています。

この「二枚起請文」を全国の檀信徒さんに写経していただき、本山に納めていただきます。写経用紙として、手本写経用紙をセットにして、一般寺院を通じて檀信徒さんに千円で配布。写経したものを本山に奉納していただき、本山で奉納回向をして、御影堂下にもうけた特設納経庫に一年間祀ります。

法然上人への絵手紙募集

念仏する喜びに気づかれた法然上人の目線に立つて、この喜びを未来に伝えましょう。

特に青少年の方に、八百年前の法然さんに手紙を出すという仮想のなかで、未来への想いを語っていただくというもの。平成十九年～二十二年「法然さんへの絵手紙」募集として全国へ発信。地方記念事業での告知とともに、全国紙、地方紙に配信。また、月刊「公募ガイド」等を活用します。

期間が長期となることから、三回にわけて募集。各回優秀作品を選定し、入選者に賞品を贈ります。募集期間は、
第一回、平成十九年十月～十二月、
第二回、平成二十年十月～十二月、
第三回、平成二十一年十月～十二月
で、テーマは「法然上人と今、すべてのいのち」。くわしい応募要綱は事務局までお問い合わせください。

法然上人を歩く旅

法然上人の行跡を顕彰し、その功績をしのびましょう。

岡山誕生寺から比叡山延暦寺まで、約二百七十キロを十四回にわけて歩きます。第一回を平成十八年十月九日にスタートし、平成二十二年の十月に目的地に到達いたします。定員を先着五十名とし、交通費は自己負担いたします。

賞品として、百マイル賞デジカメ一台、五十マイル賞ハイキングバッグ三名(抽選)を用意しています。

第一回、平成十八年十月九日、誕生寺から津山 十六・五キロ
くわしい応募要綱は事務局までお問い合わせください。



発行所

宗祖法然上人八百回大遠忌記念事業事務局

〒六〇六-八四四五 京都市左京区永観堂町四八

電話 〇七五-七六一-〇〇〇七

FAX 〇七五-七七一-四二四三

Eメール zenrinji@eikando.or.jp